

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371200649		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	名古屋南ケアセンターそよ風(西)		
所在地	愛知県名古屋市南区白雲町6		
自己評価作成日	平成26年1月28日	評価結果市町村受理日	平成26年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&ligyosyoCd=2371200649-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋市守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成26年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の一角の静かな環境の中にあり、笠寺観音や公園など自然にも恵まれている。『共に支えあう』を理念に、職員は入居者様の暮らしを支え、入居者同士も関わり合いを持って暮らせるよう支援しています。入居者様の体調に配慮しながら、散歩や買物、外食、また、個別的に行きたい所に出かけて頂いたりしています。地域の行事に参加したり、幼稚園児や小学生の訪問を受け入れたりし、地域とのつながりも大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古い家並みが並ぶ住宅街に、一階はデイサービス、その二階に2ユニットが事務所を挟んで並んでいる。デイサービスとは玄関が別になっているため、デイサービスを通らずに外へ出られる構造になっている。外部評価事前アンケートでは、18家族中16家族から回答があり、ホーム周辺に家族が集まっていることを差し引いても、家族の関心の高さが窺い知れる。古い家並みでありながら、近所には小学校・幼稚園もあり、地域児童が運営推進会議中に訪れたり、幼児から高齢者まで幅広く生活する、バランスのとれた人口構成の地域である。地域自治会も防災訓練を行わない、ホームから入居者も参加するなど、自治活動が活発な地域である

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を作り、いつでも意識できるよう、事務所・フロアー・玄関に掲示し 実践につなげている。	「入居者同士、共に支えあい、それぞれの個性、能力を発揮し、地域と触れ合いながら自由に、喜びや楽しみのある生活を送る」という理念は、職員がみんなで考えたものである。玄関・事務所・各ユニットリビングに掲示され、職員も、「目に入るたび自分の行動が理念にかなっているか見直すきっかけになっている」と語る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板も届けに行っている。盆踊り・秋祭り等にも参加し、近隣の方との交流をしている。近所のスーパー・コンビニ・喫茶店などを利用し、顔なじみになっている。	町内会に加入し、回覧板は入居者が隣家へ届けている。小中学生の介護体験を、デイサービスと一緒に受け入れており、その時訪れた子が、運営推進会議中に訪れたことが記録されている。町内の防災訓練につき、運営推進会議で町会長から要請があり、入居者も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	直接は活かしていないが、中学生の職場体験の受け入れや、福祉専門学校の実習の受け入れ等で、認知症の人の理解・支援の方法を知ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。ご家族や地域の人に参加して頂き、近況報告をしている。家族様からの意見は職員全員に周知し、サービスの向上に活かしている。	町内会長・地域包括センター職員・入居者家族が参加し、今年度も6回の開催が確認された。「子供の顔を見るととても喜ぶが、子供とのふれあいはありますか？」との家族の質問に「年2回ぐらい、幼稚園児が訪問したり、小中学校児童の介護体験受け入れをしている。それが縁となりよく児童が遊びに来る」ことがホームから報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支援センターの方に運営推進会議に出席して頂き、事業所の近況報告や支援センターでの取り組みについて情報交換を行っている。	地域包括センター職員が運営推進会議に参加した折には、市の「お帰り支援事業」「認知症になっても大丈夫」講演会のお知らせが家族になされた。運営推進会議では「地域で認知症に関するトラブルが出てきた」との報告もされている。	定期的な行政との連携は図れていない。介護保険者である行政と連携して、認知症の啓蒙・地域の介護力向上に資する取り組み等に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は安全を考え施錠しています。必要以上の拘束をしないよう努めている。やむを得ず行う場合は、家族に説明をし、同意書をもっている。月に1回、廃止に向けての話し合いをしている。	2ユニットが階段で結ばれる、市内でよくみられる構造ではなく、1フロア2ユニットとなっている。各ユニットにはチャイムがあり事務所とはアラーム音が別に設定されている。各ユニット間・事務所へは、ドアを開ければ自由に行き来できるようになっており、自立の人が介護度の高いユニットの日常家事の手伝いに通う姿が確認された。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センター全体で高齢者虐待防止の研修を行っている。虐待が見過ごされることがないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者はいる。利用者の状態についてご家族に話をすることはあるが、直接活用できるよう支援はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、職員が家族と重要事項説明書の読み合わせをし、説明・補足をした後、契約を行っている。不安や疑問もお聞きしている。解約時も家族と十分な話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議や面談時に意見・要望をお聞きしている。要望・苦情は記録し、職員間で周知している。玄関に意見箱を設置したり、そよ風以外の苦情相談窓口の案内もしている。	家族会は、敬老会の家族参加など、年2回、開催されている。運営推進会議でも家族から活発に質問が出されている。ホーム便りは毎月発行され、各ユニットごと入居者の嬉々とした写真を添え、家族も「にこやかな表情を見て、安心できる」と喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、部署会議を行っている。必要に応じ面談を行い、意見を反映できるよう努めている。	担当制を採用しており、個々の職員がそれぞれの入居者の日々の変化を詳細に観察し、特異事項はリーダーに報告され共有されている。毎日決まった時間に外出しようとする入居者を見て「帰宅をプランに取り入れては？」という提案を実行してかぎり帰宅している入居者もいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康状態の把握、休日の確保等、心身共に意欲を欠くことがないよう配慮するよう努めている。残業が多くならないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は入社3ヶ月間、キャリアトレーニングを実施している。又、毎月勉強会を行っている。不定期だが施設外の研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋南東部グループホーム交流会に参加している。勉強会や意見交換があり、交流を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には面談を行い、本人と話をしている。又、日々の生活の中でコミュニケーションをとり、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点で不安なこと等を十分にお聞きしている。面会・面談時に要望等をお聞きしたりし、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で、必要とされている支援を見極め、他サービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	参加できそうな活動を見極め、一緒に作業したり、他利用者と交流できるよう働きかけている。利用者から職員が教えて頂く姿勢も心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはゆっくりと会話ができるよう配慮したり、日々の様子を伝えたりしている。家族会では本人・家族・職員とで楽しく過ごせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や兄弟が面会に来やすいように、環境作りに努めている。	外出の要望については、できる限り個別に対応している。「お墓詣りがしたい」という入居者に同行したこともある。買い物の希望があれば職員が同行し、支払いを体験してもらっている。笠寺観音の「六の市」は昔から入居者が通っており、よく職員が同行する。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士は隣に座って頂いたり、コミュニケーションがとりにくい利用者も間に入るなどして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係を断ち切らないお付き合いをする姿勢は持ち合わせているが、現状では継続的な関わりを必要としている利用者・家族はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に確認したり、モニタリングの際、本人に参加して頂いたり、職員間で話しあっている。日常会話からも思いや意向をくみ取れるように努めている。	理解できる人には本人にプランを説明し、要望を聴取している。それができない入居者は、日々の行事で見せる、うれしそうな表情を担当者が見逃さず、職員間で共有し、本人の思いを推測している。運営推進会議および来訪時には家族に現状報告し、要望を聞き出している。帰宅願望の強い入居者は、希望された際には帰宅同行し、希望をかなえ、平穏な生活を送れるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や随時、家族からお聞きしたり、本人からも会話の中で聞きだしたりし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・申し送りで、ご本人の様子を把握している。できること・苦手なことを把握し、出来るだけストレスなく過ごして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員がつき、毎月モニタリングをし、評価や見直しを行っている。本人や、面談時に家族から意見や要望を伺い、介護計画に反映させている。	担当制を採用しており、入居者の変化は日誌に記録され、特異事項は申し送りにより、継続的に注意・観察されている。プランは各ユニットごとファイリングし、いつでも見られるように配慮している。「本人の思い・求めていること」欄がプランに設けられ、モニタリングの参考・プラン見直しに役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化も他職員に報告し、介護記録・申し送りに記入している。介護計画はファイルにし、全職員が目を通せるようにしてある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状では支援や取り組みにまでは至っていないが、本人や家族からの意向があれば対応をしていく姿勢は持ち合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉会館や近所の喫茶店・コンビニ・六の市を利用している。外出レク時はボランティアの方に来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医とは入居時に面談を行い、十分な話をし、2週間に一度、住診が各居室で行われている。また、協力医とは別に、本人や家族が希望するかかりつけ医での受診も可能である。	協力医とは24時間連絡体制が確保されている。入居前からのかかりつけ医への受診も可能。眼科受診の必要な入居者、希望するかかりつけ医への受診は家族が対応している。歯科治療が必要な入居者は訪問歯科の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設デイサービス看護師職員に支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医は近隣にあり、入院時は様子を見に行った際に話しを伺ったり、先生より直接連絡をもらうことがある。早期退院の理解もあり、早期に退院できるよう、病院関係・ご家族と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず入居時に家族へセンターの方針を説明して同意を得ている。状態が変化した時は、ご本人・家族の要望に可能な限り応えていき、センターですることを十分に説明をし理解して頂いている。主治医からもご家族に説明してもらい、確認をしている。	入居時、重度化した場合の医療行為の方針の説明を行っている。見取りはこの1年間はないが、看取りを行う体制はとっている。昼間は毎日併設のデイサービスの看護師が状態観察を行う。24時間、協力医と連絡体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル・手順などを、わかりやすい場所に掲示し、対応の統一に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。施設内には非常用持ち出しとして、食料・備品を常備している。火災時は近隣の方に協力依頼をしている。	避難訓練が5月・10月に併設のデイサービスも含め実施されている。非常時は、2階フロアがホームのため職員は入居者をベランダに避難させ、はしご車で下ろしてもらう体制である。職員ルームの棚に、非常持ち出し用の水・ごはん・ドライカレー・ピラフ、紙おむつ、カセットコンロが常備されている。地域の防災訓練にスタッフが参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守った声掛けをするよう努めている。1人ひとりの人格を尊重し、その方に合ったケアができるよう心がけている。	女性の入居者は名前で、男性の入居者は姓で呼びかけている。言葉が直ぐに出てこない入居者に話しかける時は、返答が帰ってくるまでゆっくり待って次の質問をするように、その方の人格を尊重する対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような言葉掛けをするように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ご本人からその日その時の希望を聞きだせるような会話をし、希望に添えるように支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用したり、希望により美容室に出かけて頂いたりしている。着用が適切でない時はアドバイスさせて頂いたり、マニキュア等のおしゃれもできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを一緒にしたり、準備をしながら、食事が楽しみになるような会話をしている。座席の位置にも配慮させて頂いている。	日曜日以外は、1階に併設のデイサービスで作られた食事を、できる入居者が盛り付け下膳、食器洗いをしている。日曜日は一緒にできる範囲で調理も行なっている。おやつ作りも一緒に行なっている。朝食は起床時間に合わせて対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立を提供している。一日の水分量はチェック表につけ、把握できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しをしている。歯ブラシだけでなく、スポンジブラシ・口腔ケアティッシュ・入歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導をしている。排泄チェック表を使用し、1人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。排泄パターンに合わせたトイレ誘導も行っている。	尿意のない入居者は排泄パターンで時間をみて、トイレ誘導する。入居時には紙パンツだった入居者がトイレ誘導のことばかりにより、布パンツ+パットになった入居者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとったり、ヨーグルトや繊維の多い物を食べるなどしている。毎朝 体操を行ったり、腹部マッサージをし、自然排便が促せるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は決まっている。その中で、前日に入っていない人に優先的に入って頂けるように言葉書けをしている。	入浴時間は15時30分から2時間。毎日入浴を希望される入居者は毎日入浴している。入浴をしたがらない入居者には時間をおいてまた誘いなおすなど声かけ誘導を工夫し、脱衣室まで誘導し入浴していただく様にするが、無理強いはいしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に起床時間を設けず、その方の睡眠状況に応じて起床して頂いている。1人ひとりの状態に合わせ、食後などに休む時間を作ったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食事ごとに薬ケースを分け、段階的にチェックし、服薬の支援を行っている。変更・追加になった時は、薬剤師から説明してもらい、把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ノンアルコールビールやパイポ、又はトランプ、色塗り等、1人ひとりのお好きなことを提供できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩へ出かけたりしている。個別レクでは、家族と相談したりし、希望に添えるよう努めている。外出レクでは、家族やボランティアの方に協力をして頂いている。	気候の良い季節は、往復30分ほどの公園・神社に職員と散歩に毎日出かける。個別レクで希望される喫茶店やお墓参り・理美容室に出かける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事務所の金庫にて保管させて頂いている。買物を希望される時は一緒に出かけて頂き、支払いをして頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の受け入れ状況に配慮させて頂きながら、希望時には連絡が取れるよう努めている。年賀状のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物を掲示し、フロア内の室温にも配慮させて頂いている。また、利用者が生活しやすいよう、家庭で生活しているような空間作り・環境作りに努めている。	玄関には季節の飾りがあり、食堂にも季節を感じる掲示物が飾られている。食堂は常時テレビが静かな音にしている。テーブルの座る位置は入居者の相性を考えて配置している。掃除ができる入居者は一緒にモップ掛けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のその時の状況に合わせた対応をさせて頂いている。また、利用者同士交流ができるよう働きかけ、座る席にも配慮させて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を居室へ置いたり、家族の写真や手紙なども見える所へ置き、環境作りに努めている。	部屋には備え付けのクローゼットがあるが、家で使っていたタンスや家具を持ってきている入居者もいる。居室の壁には家族の写真や手紙・自分で描いた絵が飾ってある。希望される入居者はホームで季節に飾った作品を居室に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に移動ができるよう、通路を広くしたり、手すりを使用し、できるだけ自分の力で立ったりする事ができるよう工夫している。		